



Profile

新野町シームレス民泊推進協議会

人口約3,300人。あたたかい太陽がふりそそぎ、里山の風景が広がる新野町。タケノコの里としても知られ、海から車で10分ほどの距離にあるにもかかわらず、四方を山に囲まれた内陸部で、町の平均標高は30m以上あり、津波の心配が想定されていない地域となっている。



『防災・お遍路・たけのこのまち』で 笑顔あふれるまちづくり

「シームレス民泊」とは、四国八十八ヶ所霊場第二十二番札所平等寺のある新野町で始まった全国初の試みで、通常は、町内の空き家を活用して民泊を行い、お遍路さんを中心とした宿泊客と交流を深め、地域活性化を図る。また、発災時には、避難所での生活が困難な要配慮者(妊産婦、高齢者など)を受け入れる避難所として使われる民泊のことを言う。津波の心配がない新野町は、近隣地域の防災拠点として役割が期待される。

2021年と2022年には、隣接する福井町と橘町の津波想定エリアと合同で広域連携自主防災訓練を行い、注目を集めた。防災に強い町は、移住者にとって大きなファクターで、近年移住者が増えて空き家の整備も追いつかないという。

今後は、年間10万人が訪れる平等寺を中心とした観光事業にも取り組んでいく構えだ。すでに、平等寺を訪れるお遍路さんに宿泊やお土産の購入などのアンケートを行っている。このデータを事業者や移住を考えている人にエビデンスとして、提供することも考えている。

大切なのは、この新野町を未来へ残し、存続していくこと。人々が活力にあふれ、いきいきと暮らす、未来の新野町のためにこれからも活動を続けていく。